

私には  
人生と  
花の一生  
が重なつて  
見えて  
ならない



石本正「牡丹」1999(平成11)年

# アフロディア

石正美術館 ミュージアムニュース  
SEKISHO ART MUSEUM  
MUSEUM NEWS  
Spring 2018  
No. 136

## ◆ 石本正記念展示室 ◆ 2018年度 「石本正作品選1」 より

「石本正作品選」では、青年時代から晩年に至るまでの画業の全貌を、展示作品を年四回に分けて入れ替えるながら紹介します。収蔵作品の中から選び抜かれた名作の数々を、ぜひ会場でご覧下さい。

### 【特集展示】

#### 石本正「細部へのまなざし」



今回の展示では、展示室の一角を使つて特集展示・

石本正「細部へのまなざし」を行つてあります。女性を「美」の最たるものとして愛し、その細部に現れるわずかな美をも見逃すまいと、こだわりを持って表現し続けてきた石本。本展では、「手」「目」「髪」に焦点をあて、画家の言葉とともにご紹介しています。

#### 髪～表現の移り変わり～

今回はその中から、「髪」をテーマにお話します。生涯、女性の美しい肌の表現を追求したことでも知られる石本ですが、実は髪についてもある理想を持つ追い求めてきました。黒髪の美しさについて、浮世絵を例に挙げながらこう語っています。

「黒髪の美しさをひとはどうして忘れてしまつたのだろう。『髪は女のいのち』という言葉があるように、黒髪は女性なるもののシンボルであつた。それは、さ

まざまな形で描かれ、語られ、謳われた。  
(中略) 一例をあげれば浮世絵だ。椿油で整えた髪の一



鳥高斎栄昌「若菜屋内白露」寛政(部分)

金色の細い線で追つた表現。こちらに注目しながら、実際に作品をご覧いただければと思います。

三十代から四十代は、石本にとって古典芸術を吸収しながら、新たな日本画表現を模索する挑戦の時代でした。この頃はまだ、髪全体の表現はやや平面的で、ざっくりと髪の流れが描いてある程度です。

四十二歳の時に描いた「横臥裸婦」では、粒子の粗い絵の具をペインティングナイフで削ったような白い線が登場し、ここでようやく、髪の毛を線で表現する動きが見られるようになりました。

その後、舞妓をテーマにした作品を多く描くようになった石本。当初、舞妓の結髪を赤茶色の太い線で縁取っていましたが、次第にその面積は狭まり、特に額やもみあげの

それから、テーマは「舞妓」から「白粉を残した裸婦」へと変わり、ここでついに金色の線が登場します。

一九七〇年代後半に差しかかると、髪の表現はますます深く豊かになっていきました。金色の極細の線でうなじや生え際のピンと張ったところの描写をじつとみているとなんといえない色香が漂つてくるようで、確かにここに一人の生きた女がいるという実感がわいてくるのだ。(中略)

ぼくもなんとかしてぼく流の黒髪を描きたいと思う。ぼくだけが発見した女の美を描きたいたのだ。(後略)」[『芸術新潮』一九七三年八月号(新潮社)]



鳥高斎栄昌「舞妓 夏の終わり」1971年(部分)

たこの文章ですが、この年の春、京都国立近代美術館で開かれた「シカゴ美術館浮世絵名品展」の影響があつたと考えられます。この展覧会は、愛好家の間で大きな話題となり、石本もわずか二十三日間の会期中三度も会場を訪れる程で、アトリエにはこの時の図録が大切に保管されていました。

もしかすると、そこで再認識した黒髪の美しさを自分なりに表現したいという想いが、このような言葉として現われたのかかもしれません。



「室内」1987年(部分)

その後も様々なヘアスタイルの現代女性を描いた石本でしたが、この金色の線の表現は続けられ、彼の女性像に欠かすことのできない表現として定着していました。

「舞妓 夏の終わり」1971年(部分)の美しさを自分なりに表現したいという想いが、このような言葉として現われたのがとても自然に見えます。身体や顔の表現もだんだんと洗練されていきましたが、まだ金色の線描は見当たりません。

## ◆企画展示室◆ 石本正素描展「イタリアの思い出」

石本正が憧れ続けたイタリア。一九六九～八九年の間に石本の企画で行われた「ヨーロッパ美術の旅」でのスケッチ二十三点と共に、画家が感動を求めてヨーロッパ各地を廻った足跡を辿ります。

石本正が企画した全十回の「ヨーロッパ美術の旅」で廻った国の数は、イタリア、フランス、スペインなど、現在わかつているだけでも十か国にのぼります。中でもイタリアは合計七回も訪れており、十回の旅の中でも滞在日数も多めに取られていました。大きな街から通常の観光では訪れないような小さな村まで、国内を北から南まで隈なく巡るような行程になつており、このスケジュールを客観的に見るだけでも、イタリアの文化に対する石本の興味や思いが特別なものであつたことがうかがえます。

今回は、全十回のなかでも最も長い八十一日間の日程で行われた第三回（一九七五年十一月十日～一九七六年一月二十日）の旅のルートに着目し、画家が残されていました。



第3回ヨーロッパ美術の旅ルートマップ  
総距離／約6050km

九日）の旅のルートに着目し、画家が残したスケッチをこのルートにできるだけ沿うような順番に並べています。

### 熱い思いと探究心が可能にさせた旅

石本が企画した「ヨーロッパ美術の旅」では、毎回旅のスケジュールが詳細に書かれたしおりが参加者のために用意されていました。これは日程と訪問予定の地名だけでなく、見学予定の美術品や写生ポイントなどが場所ごとに事細かく記載されており、これを見るだけで石本が興味を持っていた中世の美術品がどんなものであったかを、ある程度知ることができると重要な資料となっています。

### イタリアの風景に重ねたなつかしい日本の姿

このたび全七十七ページにもおよぶ「第三回ヨーロッパ美術の旅」のしおりを元に当時の道程をマップに再現してみたところ、八十一日間で一行が移動した総距離は約六〇五〇kmにもおよんでいました。日本を北海道から九州まで直線で結んだ距離を測定すると約二〇〇kmになることから、実にこの三倍近い距離を移動しながら、石本が調べ上げた中世の美術をと

ことん見学して回つたことになります。行程は、まずオランダの空港に到着してすぐにロンドン（イギリス）へ向かって一日見学した後、フランスへ移動。フランスでは二十七日間かけて各地を回り、残りの約五十日間はイタリアを限なく廻つてヨーロッパ中世美術を見学し尽くすというものでした。すべて貸切バスでの移動とはいえ、相当なハードスケジュールだったことでしょう。同様の旅を現在企画しようとしても完璧な再現は難しいと思われ、まさに石本のヨーロッパ美術への熱い思いと探究心が可能にさせた旅であったといえます。

「世界中に、イタリアの街ほど美しい所が他にあるだろうか。一つの眺めの中に『街』が集約されているのだが、その光景に私は非常になつかしさを覚える。その古い街並みが、昔の日本を思い出させるのである。どこが似ているかと言われる」と答えるのは難しいが、自分達の街を頑固に守り続け、何百年も同じ姿を保ち続けている。そのイタ

リア人の根性に昔の日本人の姿を見るのかもしれない。」

スケッチは後半の一九八〇（昭和五十五年）以降のものに集中しています。しかもていたということもあり、現存する彼のスケッチは後半の一九八〇（昭和五十五年）以降のものに集中しています。しかも彼らのスケッチ場所はイタリアを中心とする南ヨーロッパの風景が多いのが特徴です。イタリアについて語った、画家の言葉をご紹介しておきます。



◆「石本正作品選1」（石本正記念展示室）  
◆石本正素描展「イタリアの思い出」（企画展  
示室）  
【会期】六月二十四日（日）まで

「サン・セヴェリナ」1989（平成元）年 ▶



シエナの街のようす

## 学芸員の部屋

イタリア中部にあるシエナを訪れたのは滞在四日目、一月一日のことでした。二〇一八年が始まったこの日は、日本と同様に休館しているお店や施設が多い中で、シエナの市立美術館だけは午後のみ開館していたため、宿泊地のフィレンツェから少し足を延ばすことになりました。

中世の姿をとどめるシエナの旧市街は、「シエナ歴史地区」として一九九五年（平成七）年にユネスコの世界遺産に登録されています。何百年も昔に建てられた建築物がそのまま残っていて、現代の人たちの生活の中にしつかりと溶

け込み大切にされている大変美しい街です。中世そのままの街並みに身を置くことこそが、イタリアを訪れる醍醐味なのだと肌で感じるような場所で、先生が初めてこの街を訪れた約五十年前からも、きっと景観はほとんど変わっていないのだろうと思いませんがら、でこぼこの石畳の道を歩きました。

街の中央にあるカンポ広場に到着すると急に目の前が広く開け、レンガの赤茶と白い石の二色で彩られた美しい「マンジャの塔」が目の前に現われました。この塔のある建物が「シエナ市立美術館」で、十三世紀頃に建てられたブブリコ宮殿です。この中に、石本先生のある作品のイメージの基になったフレスコ画があるのですが、この作品について触れるのはまた次回にしたいと思います。

シエナで見たかったものは他にもあって、その一つが、先生がスケッチした『街の風景』でした。石正美術館が所蔵しているヨーロッパのスケッチのうち、シエナの街で描かれたものが四点あります。マンジャの塔の上から描いたものが二点、そしてマンジャの塔を入れてカンポ広場全体を描いたも

## イタリアの旅②——中世の街・シエナ——

け込み大切にされている大変美しい街です。中世そのままの街並みに身を置くことこそが、イタリアを訪れる醍醐味なのだと肌で感じるような場所で、先生が初めてこの街を訪れた約五十年前からも、きっと景観はほとんど変わっていないのだろうと思いませんがら、でこぼこの石畳の道を歩きました。

あと二点は、マンジャの塔から少し歩いたところにあるシエナ大聖堂の付属美術館の上から描いた風景でした。美術館といつても、十四世紀に拡張計画が立てられ未完のままに終わった大聖堂の一部です。先生のスケッチ

場所は、この建物の脇にある「未完のファサード（建物の正面）」の屋上でした。人ひとり通れるほど暗く狭い螺旋階段を上り切り、ようやくたどり着いた最上階で目の前に広がっていたのは、シエナの街を三六〇度展望できる見事な景観でした。

そして冬の冷たく強い風に吹かれながらうしろを振り返ると、先生のスケッチそのままの風景が私の目に飛び込んできました。古びた赤茶色のレンガや瓦の建物が扇形のカンポ広場をぐるりと囲んで建っています。この城壁の街



先生のスケッチ場所

未完のファサード

の外には広く緑の平野が広がっています。それから用意していた先生のスケッチのコピーを手に持つて、実際に持てて、実際

の風景と並べてみました。すると、少しゆがんだように描かれている屋根の形も本当にそのままの形をしていて、街の輪郭がかなり正確にとらえられていることがすぐに分かりました。反面、遠くや手前看見えている小さな家並みなどは省略されていました。まるでシエナの街の味わい深い美しさだけを抽出して描いているかのようでした。

「ファサードは地上三十メートルほど の高さであったと思うが、そこから眺めるシエナの街は円環を作っているような印象であった。どうにかしてその円をとらえたくなり、先ず遠景を描いた。それが画面の上部で、下の部分の屋根はファサードから真下に見降ろして描いた。右側をつなげて全体を円に仕上げようとしたのだが、最後に上下をつなぐ時間がなかつた。（中略）改めて今見ると、その断絶がかえって効果的であつたかと思う。（後略）

絵を描き始める時には、必ず『意図』がある。それは感覚的な意図とでもい

うべきもので、今回は全体の円環を出すことがその意図であった。（後略）

(石本正「画文集 我がイタリア」一九九二  
(平成三)年／新潮社)

になつていくのだろうと思つています。またいつか、この中世の街・シエナに、ゆつくりと訪れてみたいと思つています。

(学芸員 横山由美子)



石本正「シェナ」1987（昭和62）年 ※現在展示はしていません。

先生の言葉の中にある「街が作り出す円環」が私の目にも見えていた気がしていたのに、帰つてから写真を見なお

けの鉛筆一本にいたるまで、室内にあつたほとんどのものを大切な遺品としてご遺族から美術館にお譲り頂きました。

ここに先生の気配を感じさせるような部屋づくりを目指して現在作業進行中です。

石本先生が亡くなられた後、その生涯の中で長い長い時間を過ごされたアトリエから、先生の作品だけではなく、使われた画材や読んでいた本、使いか

は、その時に使つた色の右絵の具の瓶が一番手前に置いてあつて。画材などの大切な遺品の数々も、できるだけ先生が使っておられたように並べ、そ

## 「石本正のアトリエ」再現

**4  
28**  
**OPEN**



京都のアトリエで、先生の足下に並んでいた絵具瓶

今回の旅で、先生が残された言葉の意味が感覚的に理解できるということがいくつもありました。それは私には、まだきちんと言葉にして説明できない事も多いです。先生のように憧れてやまないものや場所を、何度も何度も訪れて目にすることで、それらが心の奥まで浸透して自分のものまで浸透して自分のもの

もどもと喫茶室があつたスペースを大改装し、先生が過ごされた京都のアトリエができるだけ忠実に再現することを目標に、部屋の広さや床の色、レイアウトなどにこだわってきました。今回公開する最初のコンセプトは、私達がアトリエにいらっしゃる石本先生とお会いすることのできた『晩年のアトリエ』の様子を再現することです。腰の曲がった先生が、口口口口と動く椅子に座つて、立てかけられた沢山の描きかけの作品を、気の向くままに描いておられた最晩年。先生の足下に

石正美術館に来ればいつでも見る事の出来る代表作と合わせ、それらが生み出された「石本正のアトリエ」をじ覧いただければ、より一層『画家・石本正』の存在を感じていただけます。

またこの空間では、美術関連図書の閲覧もできる休憩スペースも併設しています。画家と共に静かな時間を過ごすような、特別な時間を過ごしていただければと思っております。完成後のご来館を、心からお待ちしています。



GWの石正美術館では、楽しい創作教室をご用意！  
大人も子どもと一緒にモノづくりを楽しもう！

5/4  
祝

## ねんど de デコ！ ～パスタとケーキのマグネット～

13時～15時 参加費：各400円（パスタ・ケーキのセットで700円）  
講師：琴野和世さん 定員：各20名（予約優先）

ちっちゃくてかわいい、パスタとケーキのマグネットをつくりろう！軽量ねんどや樹脂ねんどを使うので、手や服をよごす心配がなく小さなお子さんでもカンタンにできます。



5/3  
祝

## レザークラフト 「お花のキー ホルダー」

①13時～  
②13時30分～  
③14時～  
④14時30分～  
(各回30分)

参加費：500円  
講師：モードエモード静さん  
定員：各回7名（予約優先）  
革のひもを使ったかわいいキー ホルダーが作れるワークショップ。約10色のお花のモチーフから好きなものを選んで、革に穴を開けてカシメで留めてできあがり♪



5/5  
祝

## せきしゅうわし 石州和紙で こいのぼりをつくろう！

13時～15時 参加費：300円  
定員：20名（予約優先）

石正美術館のゴールデン ウィーク恒例！味わいのある手書きの石州和紙で、自分だけのかわいいこいのぼりを作ろう！



### 創作教室

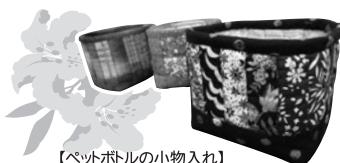
#### おとなのアートサロン 「アメリカン・パッチワーク教室」

講師：村上 泰子さん

5.12 土

10時～15時

（12時～13時昼休憩）



参加費 1,000円 ※要申込み（定員 15名）  
【持ち物】裁縫道具（針・糸・ハサミなど）、  
ものさし（15～20cm程度）、昼食

アメリカの古布を使ったパッチワーク教室。  
浜田市在住のキルト作家・村上泰子さんを講師にお迎えし、  
レトロで可愛い花柄の小物入れを作ります。当日は各自裁縫道具、ものさし、昼食をご持参ください。

### ギャラリー展示

#### たいじ 野村泰二作品展

4.28 土  
→ 5.11 金

9時～17時  
(最終日 15時まで)  
月曜休館

入り  
場  
無料



当館で開講している「洋画教室」の講師・野村泰二先生の作品展を開催します。  
時の流れを一枚の絵として表現したという作品の数々。  
野村先生の描く想いとともにぜひご覧ください。

### ギャラリー展示

#### Daisuke Tsuchida+Kanako. 「寿限無と空っぽ。」

5.12 土  
→ 5.25 金

9時～17時  
(最終日 15時まで)  
月曜休館

入り  
場  
無料



浜田市在住の土田大介さん、Kanako。さんによる初めての2人展。センスと個性溢れる、様々な絵画作品等をお楽しみください。

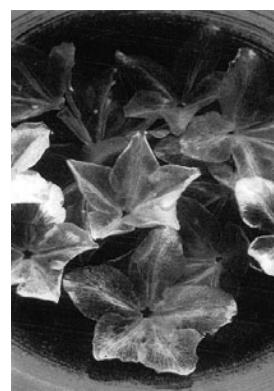
### ギャラリー展示

#### 石川かつひろ写真展「私の和乃色」

5.26 土  
→ 6.8 金

9時～17時  
(最終日 15時まで)  
月曜休館

入り  
場  
無料



益田市在住の石川かつひろさんによる写真展。  
一味違った切り口で撮影された、花や風景などの写真の数々を楽しめます。

# SCHEDULE 石正美術館スケジュール

石本正記念展示室	企画展示室	ギャラリー 【入場無料】	ミュージアムパフォーマンス・創作教室
4 2018年度 石本正作品選1	石本正素描展 「イタリアの思い出」	<p>4.3 火 ↓ 石見の桜展 4.26 木</p> <p>4.28 土 ↓ 野村泰二作品展 5.11 金 最終日 5.11 は 15 時まで</p> <p>5.12 土 ↓ Daisuke Tsuchida+Kanako. 5.25 金 「寿限無と空っぽ。」 最終日 5.25 は 15 時まで</p> <p>5.26 土 ↓ 石川かつひろ写真展 6.8 金 「私の和乃色」 最終日 6.8 は 15 時まで</p>	<p>5.3 祝 レザークラフト お花のキーホルダー ① 13 時～ ② 13 時 30 分～ ③ 14 時～ ④ 14 時 30 分～ (各 30 分) 講師：モードエモード静さん 参加費：500 円 定員：各回先着 7 名（予約可）</p> <p>5.4 祝 ねんど de デコ！ ～パスタとケーキのマグネット～ 13 時～15 時 講師：琴野和世さん 参加費：各 400 円（セットで 700 円） 定員：各先着 20 名（予約可）</p> <p>5.5 祝 石州和紙でこいのぼりをつくろう 13 時～15 時 参加費：300 円 定員：先着 20 名（予約可）</p> <p>5.12 土 おとなのアートサロン 「アメリカン・パッチワーク教室」 10 時～15 時 (12 時～13 時 昼休憩) 講師：村上泰子さん 参加費：1,000 円 定員：15 名 持ち物：裁縫道具（針・糸・ハサミなど）、 ものさし（15～20cm 位）、昼食</p>
3.24 土 ↓ 6.24 日	3.24 土 ↓ 6.24 日	平成 29 年度 石正美術館 絵画教室作品展（前期） 6.9 土 ↓ 6.24 日 「日本画教室」 「初めての日本画」	<p>第 55 回石本正絵画教室 「裸婦デッサン会」 6.23 土 特別講師：日本画家・吉川弘先生 （京都造形芸術大学教授、創画会会員） 6.24 日 参加費：7,500 円 定員：30 名 予約開始日：5 月 12 日（土）午前 9 時～</p>
7	6.25 月 → 7.2 月 展示替休館 CLOSED		
石本正作品選2 2018年度	描 第 い 8 た 回 日 石 本 州 和 画 紙 に	<p>平成 29 年度 石正美術館 絵画教室作品展（後期） 7.3 火 ↓ 7.16 祝 「洋画教室」 「石本正絵画教室」 最終日 7.16 は 15 時まで</p> <p><b>ギャラリー利用について</b> 石正美術館では作品展示の会場としてギャラリーの貸出をしています。 詳しくは石正美術館までお問い合わせください。 <b>利用料：1 日 2,160 円（税込み）</b> ※利用料金は電気代・什器利用代など含む ※当館の展示スケジュールにより日数などの変更をお願いする場合があります</p>	<p>7.7 土 「ロマンドールのセラピアン転写」 世界に 1 つのマグカップ 13 時～15 時 講師：大賀良恵さん</p> <p>7.28 土 おとな子どものアートサロン 「心いきいき！～すいかを描く～」 13 時～15 時 講師：島根臨床美術の会</p>

